

入学・進級するお子さんに スマホやゲーム機を 与える前に



入学や進級に合わせて、「お祝い」や「緊急連絡用」として、スマートフォンや通信機能のあるゲーム機などをお子さんに与える御家庭は少なくありませんが、インターネット利用上のトラブルを防ぐためには、「最初の与え方」がとても大切です。

与えてからでは戻りにくい

子どもにスマートフォン等を与える際には、コミュニケーション能力や社会的な判断能力の発達段階に合わせて、機能やアクセス先の制限を設定することが鉄則です。しかし多くの家庭では、「いずれ本格的に使うようになってから」、「子供の自主性に任せる」などと考え、なんの制限もせずに使わせ始めてしまいます。

その後、周囲のトラブルなどを見聞きして、あわてて制限をかけようと思っても、「いったん味わった自由が奪われる」と受け止める子供に対して、スマートフォン等を取り上げて制限設定したり、その意義を説明することには多大なエネルギーが必要となってしまいます。

厳しい設定で始め、次第に緩めていく

フィルタリングやアプリの利用可否など、スマートフォン等に標準で備わっている制限機能は、「かける」「かけない」の二者択一ではなく、年齢や発達に応じて厳しさを調節できます。

機器の与え始めは最も厳しい設定から始め、子どもに使わせても良いと保護者が思える機能やアクセス先を、一つずつ解除していくという使い方を基本と考えると良いでしょう。

こうした手間をかけることで、保護者が、子どもの利用状況を把握し、トラブル時には真っ先に受け止めてあげられることが期待できます。



御家庭での対応

本来、スマートフォン等は、子どもには「買い与え」ず、「貸し与え」る方が、制限設定に必要なパスワードを、より自然に管理できるなど、利用状況を把握しやすくなります。既に関与してしまっている御家庭では、次の買い替えの時にぜひ「貸し与え」に切り替えましょう。

また、子どもの能力・経験に合わせて、フィルタリング等を次第に緩めていくという考え方を、最初から子どもと共有しておくことも大切です。次の制限解除のために、自分にはどのような能力が必要なのか学ぼうとする方向に子どもを導きたいものです。